

室内着とカタログを手にする寄玉昌宏さん＝加古川市加古川町寺家町

寝たまま着られ 負担を軽減

要介護者の室内着開発

加古川の業者

播州織使い、おしやれに

加古川市加古川町寺家町の介護用品製造販売業「シデカス」が、寝たまま着られるワンピース形のルームウェア(室内着)「ユニルク」を開発し、販売し始めた。柄の豊富な播州織を中心に使い、ファッション性も重視。着せやすい構造や床ずれにくい縫製などにこだわり、着る人だけでなく、家族ら介護する人の負担軽減を目指した。

(小尾絵生)

同社は代表の寄玉昌宏さん(31)＝同市西神吉町IIが4月に設立した。ヘルパーとして働いた。ヘルパーとして働いた。ヘルパーとして働いた。



もらったところ、喜ぶ姿を見て、製品化を決意した。

1日数回の着替えは介護者への負担も大きい。着用者が横になつたまま、2回の寝返りで着せられるのが特長だ。ベッドの上にシーツのように敷き、体の正面と背面を布で挟むようにして包む。

袖をなくし、布が肩を、半袖程度の長さまで覆うように設計。介護者が服を引っ張ったり、着用者が腕を無理に曲げ伸ばしたりする必要がない。ゆったりとしたサイズのため、服を着たままのおむつ交換や医療用チューブなどの抜き差しもしやすいという。

縫い代は肌に触れないように服の表面で処理し、ボタンなどによる凹凸は最小限にとどめ、床ずれの原因を除いた。生地には、柔らかく、伸びにくい播州

織を中心に使用。色落ちにくい」と話す。

5800円から。アームウオーマーや肩掛けなども用意している。商品の購入はユニルクのホームページから。着方を紹介した動画も閲覧できる。同社 ☎050・5278・6213